

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

**【評価実施概要】**

事業所番号	4091800195		
法人名	社会福祉法人 親孝会		
事業所名	グループホーム 太陽の郷		
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市鯉田字古堤516番地17 (電話) 0948-26-7789		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月1日	評価確定日	平成22年4月12日

**【情報提供票より】(平成22年2月16日事業所記入)**

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成 21 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 常勤換算	5.6 人

**(2) 建物概要**

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建て

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	管理費 11,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

**(4) 利用者の概要 ( 2月16日現在 )**

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.1 歳	最低	82 歳	最高	93 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	医療法人博愛会 鯉田病院 / 医療法人社団誠友会 嶺齒科診療所
---------	---------------------------------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

グループホーム太陽の郷は、JR鯉田駅から程近い高台に位置しており、介護付き有料老人ホームが併設されている。法人として多様な福祉事業を展開しており、その実績を活かして昨年開設された事業所である。管理者は、運営推進会議での提案をきっかけとして、鯉田地区で20年程前から開催されている「長さん会議」に毎月出席しており、多方面の地域関係者との交流の機会となり、また情報収集や協力を呼びかける場ともなっている。法人としての歴史、また関係者の協力の中で、地域との交流は1年目とは思えない充実を見せている。また家族とのつながりも大切にしており、自宅で過ごす時間や、家族来訪時の送迎等に柔軟に対応し、絆を深めていけるよう取り組んでいる。運営者の思いでもある「個別処遇」の充実に向けて余裕ある人員配置を行い、「自由な意思、選択を尊重し、地域の中で、安らぎと喜びのある生活が送れるように支援する」という理念の実践に取り組んでおり、熱い思いを持った職員によるチームケアにより、今後の展開が楽しみなホームである。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を職員に配布し、話し合いを行う中で、個別のペースや生活リズムにあわせた支援を充実させていくという方向性も再確認されている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期開催されている運営推進会議には、入居者・家族・自治会長・民生委員・地区消防団・介護保険課職員・法人理事等の参加があり、事業報告や行事予定・報告、地域との交流や協力依頼等について意見交換が行われている。「長さん会議」への参加も会議内で提案されており、地域との交流窓口として機能し始めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族からの苦言や提言は、職員や事業所の成長につながると考えており、意見が言いやすい関係づくりに努めている。ホームの苦情相談窓口や苦情解決委員会の設置、公的機関の案内とともに、苦情処理第三者委員も設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	管理者は、この地域で20年以上続く「長さん会議(校長・民生委員長等、各長の集まる会議)」に毎月参加する中で、情報収集や協力を働きかける機会となっている。地域行事(まつり鯉田・どんど焼き等)や公民館活動(いきいきサロン)に入居者とともに積極的に参加し、また地域住民に向けて事業所行事の案内文を配布し、参加を得ている。小学校の運動会・慰問(岸壁の母の劇)・コンサート・花火大会・商店街の山笠見学など、多彩な活動が行われている。地域の方々から声をかけられる入居者が多く、嬉しそうなる表情を見ることが出来る。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	昨年開設時に、「入居者様自身の自由な意思、選択を尊重し、地域の中で、安らぎと喜びのある生活が送れるように支援する」という理念とともに、3項目の職員心得を、管理者と職員全員で作りに上げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念や職員心得を入居者に書いてもらい、リビング等、目に付きやすい場所に掲示し、また朝礼や終礼、全職員参加の会議等において、確認している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	管理者は、この地域で20年以上続く「長さん会議(校長・民生委員長等、各長の集まる会議)」に毎月参加する中で、情報収集や協力を働きかける機会となっている。地域行事(まつり・どんと焼き等)や公民館活動(いきいきサロン)に入居者とともに積極的に参加し、また地域住民に向けて事業所行事の案内文を配布し、参加を得ている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	初回の外部評価となる。自己評価票を職員に配布し、話し合いを行う中で、個別のペースや生活リズムにあわせた支援を充実させていくという方向性も再確認されている。今後も、質の向上に向けて、継続して話し合いを行う予定としている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期開催されている運営推進会議には、入居者・家族・自治会長・民生委員・地区消防団・介護保険課職員・法人理事等の参加があり、事業報告や行事予定・報告、地域との交流や協力依頼等について意見交換が行われている。「長さん会議」への参加も会議内で提案されており、地域との交流窓口として機能し始めている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム 太陽の郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市の派遣する介護相談員の定期的な訪問を受け入れている。今後、行政との連携を深めていくためにも、事業所として出来る事は何か、市町村担当者と話し合いを行っていく方針である。地域における福祉拠点として、またネットワークづくりへの協働等、今後の働きかけに期待したい。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、制度を活用している方はいないが、権利擁護に関する制度についての職員研修を行い、知識を深めるよう取り組んでいる。		日常生活自立支援事業や成年後見制度について、必要となった場合に活用に向けての支援が行えるよう、また家族や地域に向けて情報発信が行えるように、資料の整備及び職員全員の学ぶ機会の確保に継続して取り組んで欲しい。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、「なまずた信書」を作成しており、行事予定やホームからのお知らせ、職員からのメッセージ等を掲載し、日々の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等の報告と共に、家族に送付している。入居者と家族のつながりを大切にしており、自宅で過ごしたり、家族来訪時の送迎に柔軟に対応している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族からの苦言や提言は、職員や事業所の成長につながるかと考えており、意見が言いやすい関係づくりに努めている。ホームの苦情相談窓口や苦情解決委員会の設置、公的機関の案内とともに、苦情処理第三者委員も設置している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	開設時以来の職員が勤務している。運営者・管理者により、働きやすい職場環境づくりへの配慮が行われており、モチベーションの確保や、意見の言いやすい関係づくりを行い、離職が最小限となるよう取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による制限は行っていない。現在、各年代の男女職員が、グループホームへの熱い思いをもって勤務している。資格を持たない場合にも、採用後それぞれが資格取得を目指し、また他の職員が相互に協力し、法人としてもバックアップを行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム 太陽の郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	日々の朝礼や終礼において、人権尊重に関する指導を行っている。高齢者虐待防止や身体拘束に関する研修を行い、職員としてだけでなく、一市民として義務を果たしていけるよう意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	併設する特定施設と合同で内部研修を実施している。開設初年度であり、全職員を新人研修の対象とし、報告書の提出を義務付けている。外部研修参加の機会も徐々に増えてきており、法人として費用負担等の支援を行っている。研修内容については、運営推進会議において報告する機会を持っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	法人として多様な介護サービス事業を展開しており、情報共有等の連携が図られている。開設1年目であり、地域の同業者との交流については今後の課題としている。		介護相談員の交流会に参加する等、少しずつ交流の幅を広げている。行政との連携も含め、「長さん会議」や運営推進会議等の連携を活かし、地域のネットワークづくりに向けた働きかけに期待します。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居希望者の自宅や入院先に訪問して面接を行い、見学についても常時受け付けている。本人・家族の状況に合わせて、徐々に馴染めるよう、個別の柔軟な対応が行われている。新規入居の場合には「入居1ヶ月の記録」を作成し、本人理解が出来るよう取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	漬物作りを行った際には、買い物からぬか床作りまで、入居者の方々から教えてもらい、野菜作りでは間引きの仕方なども教えてもらっている。これまでの暮らしを把握しながら、ホームでの日々の暮らしの中に取り入れ、共に家事や作業をこなしたり、助言をもらったり、同じ景色を見ながら、共に過ごす時間を大切に共有している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			



グループホーム 太陽の郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	職員は担当制とし、家族の協力も得ながら、日々寄り添う中での言葉や表情、行動等から思いをくみ取り、職員会議等にて共有している。入居時には「入居1ヶ月の記録」を行い、本人の気持ちを受けとめられるよう情報収集に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の言葉で、生活に対する希望が記載されており、本人・家族が常に関覧する事が出来る。センター方式の導入に向けた取り組みが始まっており、介護計画作成にもつなげて欲しい。		日常のケアを主体とした介護計画となっており、今後のアセスメントの充実を活かし、認知症への多面的なアプローチや、充実に向けて取り組んでいる個別処遇を、介護計画に表していく事に期待します。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的な見直しの他に、身体・精神状況の変化に応じて見直しを行うようにしている。3ヶ月に1回、ケア会議を行い内容の検討を行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者と家族の関係性を大切にしており、自宅で過ごしたり、家族の送迎にも柔軟に対応している。家族の状況によりかかりつけ医への受診を支援し、また馴染みの関係や場所との関係を継続できるよう、個別処遇を大切に支援に努めている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向によるかかりつけ医への受診を支援している。また協力医療機関より、定期的な医師の往診及び看護師の訪問を受けている。併設施設には看護師が常勤で勤務しており、相談・助言を受けられる環境にある。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 太陽の郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期に向けた指針を作成し、今後想定される状況の変化に応じて、本人・家族の意向を大切にしながら、医療関係者・職員等との話し合いを重ね、方針を共有していく意向である。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	記録や介護計画は、本人・家族がいつでも見ることができるようにしており、他の入居者についての記載がある場合にはイニシャル表記としている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一人ひとりの時間の流れやライフスタイルを優先した暮らしとなるよう努めている。自己決定の場面を大切に、余裕ある人員配置を行い「個別処遇」の充実に向けた取り組みを行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
25	56	食事を楽しむことのできる支援	併設する有料老人ホームの厨房での調理となり、ホームで炊飯を行っている。食材を切ってもらったり、米をといってもらったり、またレクレーションでのおやつ作りや夕食作り等、力を発揮できる場面づくりにも工夫しながら、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週に3回の入浴を予定している。併設施設と共同で利用できる浴室で、機械浴も備え付けられている。脱衣場が洗面所も兼ねており、また併設施設との通路にもなっているため、プライバシーへの配慮に更なる工夫が望まれる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 太陽の郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	これまでの暮らしや現状の希望の把握に努め、「生活づくり」をモットーに、一人ひとりの力が発揮できる場面づくりに取り組んでいる。米とぎや食材を切ってもらったり、おやつ作りや夕食作り、畑仕事等を行えるよう支援している。お金を所持してもらい買い物に出掛けたり、訪問販売での支払いをすることもある。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	近隣からの入居者が多く、散歩の途中など外出時には、馴染みの知人との交流の機会となることもある。個別処遇の充実に向けて取り組んでおり、家族の協力も得ながら、外出・外食等の支援を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	現状は併設施設との共用玄関となる。鍵をかけることの弊害を職員は理解しており、職員間の連携を図りながら、夜間(19時から8時)以外は施錠していない。中庭にも自由に入出入りでき、センサー等も使用していない。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回、併設する有料老人ホームと合同にて、避難訓練を計画しており、夜間を想定した訓練も実施予定である。運営推進会議には地域消防団からの出席もあり、会議の中で、また「長さん会議」においても地域への協力を呼びかけている。「自衛消防操作大会」にも参加している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
消防					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	管理栄養士による、栄養バランス等に配慮された献立が作成されており、嗜好調査も行われている。食事摂取量を記録し、水分摂取量については個別の疾患にも配慮しながら、必要時には記録を行なっている。個々の状況にあわせて、食事形態等に柔軟に対応している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 太陽の郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	余裕ある広さを持つ共用空間は、廊下やトイレ・浴室等、車いす使用にも配慮されたスペースが確保されている。併設する老人ホームへの行き来も自由となっており、ソファが配置され、それぞれのくつろげる場所が確保されている。		浴室の脱衣所が、併設施設との通路も兼ねており、入浴中の配慮は行われているが、プライバシー保護の観点からも更なる工夫が望まれる。
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室は採光も良く、馴染みの家具や趣味の道具、大切な写真や使い慣れた小物等がそれぞれ持ち込まれており、思い思いの部屋作りがなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			